

<自評>

コト ... コトに向かい学んで来た。

ヒト ... 荒れた学習集団。

モノ

→ 学び方
・ 学び方

前時までの様相より

<記録>に目ざけさせた。

<課題探求の姿に課題>

①高とびを好きになった子どもをはじめ、
変容を感じるという。

<質疑>

福岡 深沢 T

◎ 子どもの対話についてどうとらえていたか。
外情的な言葉 + 近く など価値語

わかってほしかった。
◎ どんな対話のかたちを収らしていたか。

◎ 構造的特性の捉え (おんこ)

◎ とびに方にかけては 11トドル

はすみとび 多様性^性を認めたい。

岡山 白石 T

◎ 前時の もつあがり

・ 苦手だった子がチャレンジしている姿に
周りの子が応え、サポートしていたから

・ 男子の中を比較動画を作成し、分析
している姿があったから

◎ 本時の見直し

記録球のたぬの音がして (下へ、環境が...)

京都三宅下

・どのようにめあてを設定しているのか？

↳ 自己をどう認知せよのか？

教師の言葉が、自己の作用
から来たものではないか？

★ 問、どのようにより高とびを達成させるのか？
に反対に、自分のめあて設定のよりに
いる。

★ 評価 については“学びのつた”を通じて
に学級の中で価値あるものを共有する
こと → A 規準、C 規準が教師がどう捉えていたのか
分かった。

★ 本単元と同じような学習過程を“センター”
で行った。

★ 自ら学びを調整し、評価もついても
常に変革させてきたが…これは現在進行中。

グループについては、多様な場を用意 (子の実態)



・課題別にはなっていないかたかもしない...

・2時目までは記録のためにグループ分け

面白さ

コト・ヒト・モノ に対応した準備ができていた。

面白さ(コト)に拍子:とができていた?

→ 要因として子どもが「行」で誤り余り
を実感できていなかったことが原因ではないか。

- ・ ヒト
- ・ モノ

他者(友だち)はヒト・モノ?

・ 関心は子どもにとって適切だったかどうか?

京都三宅下

達成 いう特性
ですすめと、4時頃まで
飽和していく...

飽和してしまつたら
競走 いうといったことも
入水でよか、たのびは？

→ 本授業者にて記録等をベースに(仮に)競走を...と考へていた

久保下

特性という見方を「ト」に見直している
達成、競争も楽(み方(遊び方)のついでに捉えている

齋加茂町

場を自ら選択に関して...

↳ 他人達の学びを「まじり」してはいたのでは
はないか、子どもたちが「手段」に「ICT」
を「活用」しているとはなっていないか。

① この学びをどうしていったい?、と投げかけた時教師
は何を意図していたのか?

→ 学びの「トータル」に関連

② 学びの「トータル」による「価値」

↳ 価値、押し付けになる場合はないか?

自分の学びに活かす。

久保下 | 自己の課題に応じて場の設定に
なっていたのか、か疑問

グループの
構成? ↳ 異質の能力があること、対話の
場を共有できる → ここに教師の問いかけ